

思い出のひとつ (※1)中第 19 回卒 松 田 一 (※2)

私たちの中学時代は、第一次世界大戦が終結して講和条約調印の祝賀式が中学4年の7月にあったのであるから、社会情勢が大きく変動した時期である。特にデモクラシーの風潮が強くなり、好奇心からも目新しく感じられ若者の気持にぴったりして、何か自由な明るい世界が開けて来るような気がする時代であった。同時にまたプロレタリアの増大によって階級対立が激しくなり、社会主義思想が勃興して来た時代である。当然このような社会情勢はわが相馬にも反映して来た。

中学5年の時の相馬中学にも反映しないわけはなかった。中学5年の時の学校ストライキが思い出される。この年の秋11月、発火演習と称する学校教練野外演習が実施された。4、5年生約200名が参加した20キロに亘る演習で、大体上真野平野と原町周辺での2つの攻防がヤマで、雨のしよぼ降るなかを演習は終了。それから原町の民家に分宿して1泊、翌日は行軍して帰校というのんびりしたもので、一それでも生徒はみな勢い立ってなかなか面白くもあり、よろこばれた行事であった。毎年の行事で、4年の時は従軍記者とかいう役でのんきに見物して歩いたものだった。5年の時は野崎 (※3)、菅野 (※4) が両軍の中隊長で、私らは小隊長という格でサーベルをつったのがいささか得意であった記憶がある。

演習が終って町内の民家に分宿した夜、たまたま本部の宿泊した某酒造店の2階で地元の卒業生が先生方を款待慰労の宴席が催された。私など当り前のこととして意にもとめなかったが、帰校後この事がきっかけになってストライキが起きたのである。5年生の大半が馬陵城に終結して、一教室占拠などの乱暴はなかった一校長並びに数名の先生に進退を勧告するということである。城趾に集まらぬ少数の反スト派は一スト呼びかけにも何のこともやら分らず、そんな勇気のないものが一教室に残った。ストライキの代表が校長に勧告をつきつけたというからなかなか大したものだった。何か怖い思いで時を過ぎた記憶がある。このストライキは卒業生が仲に入り、何やら話合ってどちらも犠牲がなく終りを告げた。このストのリーダー格は当時の社会主義思潮？に関心をもつなかなか進歩的な生徒たちであったようである。

当時は生徒綱領に質実剛健をうたわれ、酒、タバコはもちろん、活動写真を見ることも厳禁。ゲイシャのいる袋町を通ってもならぬという大変な時なのである。それなのに、生徒も同宿した2階で先生たちが款待をうけての酒宴であったので、(ゲイシャも2,3はんべったとか)これを誰かが見てそれぞれ批判し憤慨しての騒ぎとなったもので、のんきな世相の一面も見えて面白いが、純真な生徒友人の偽りない気持が思いやられてなつかしく忘れ難い思い出である。

(※1) 「相中相高八十年」1978(昭和53)年5月7日発行、「思い出の記」より。

(※2) 大正10(1921)年卒、中村出身。

(※3) 野崎辰雄、中村出身。

(※4) 菅野當治、田村郡出身。